

准教授

木村 宣哉

きむら のぶや



取得学位	修士・学士
研究室・ユニット名	公衆栄養学
研究キーワード	ヘルスリテラシー
	減塩

ヘルスリテラシーや減塩に関する研究

研究の概要・特徴

【ヘルスリテラシー】

ヘルスリテラシーとは、健康に関する情報の収集・理解・評価・活用を指す概念です。最近注目を浴びてきた分野であり、アメリカでは健康政策において重要なトピックスとして掲げられているほか、日本においても従業員のヘルスリテラシーの向上は経済産業省の健康経営制度の評価指標となっています。これまでの研究によって、ヘルスリテラシーが低いことは、予防サービスを活用しない、慢性疾患の管理が困難、職場で怪我をしやすい、死亡率が高い等々が報告されています。

これまでの私の研究では、労働者や地域住民を対象としたヘルスリテラシー調査を行っており、ヘルスリテラシーが高い人で野菜類摂取量が多いことなどを明らかにしています。

【減塩】

疾患の食生活上のリスクとして、食塩摂取量は世界及び日本において最重要課題となっています。一方で、減塩食品は味が薄いといったイメージもあり、美味しい減塩食品が求められています。近年はコンビニやスーパーマーケットでの減塩食品も展開されており、企業の減塩の取り組みが重要視されています。

現在私が計画中の研究では、リーフレット教材を使った減塩効果を明らかにすることを目的としています。

産業界等へのアピールポイント（用途・応用例等）

ヘルスリテラシーは最近ではアメリカの健康政策にも重要なトピックスとして扱われているため、今後の日本の健康政策においても重要性が増すことが考えられます。また、減塩は食生活の最重要課題として国からのニーズが非常に大きく、その取り組みは社会貢献にも通じるものと思います。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS2030年までに
世界の目標として
「気候変動を加速させることなく」

研究シーズ一覧